

鶺鴒古城まつり

令和7年5月5日(月) 午前10時〜午後3時 邑楽町多々良沼公園



鶺鴒古城まつり 特別ステージ



1. オープニングセレモニー
10:00~10:05 主催者挨拶



2. オーランドさん with Menkoiガールズ①
10:10~10:40
オーランドさんと一緒におどろう！
Menkoiガールズによる書道パフォーマンスなど



3. 郷土芸能披露
10:45~11:00
七粋会による八木節

4. 「鶺鴒古城の歴史」現地説明会
11:15~12:00 町文化財保護調査委員 大塚 孝士 さん
町文化財保護調査委員による史跡「鶺鴒古城」と刀剣の歴史の解説



5. オーランドさん with Menkoiガールズ②
13:15~14:00
「鶺鴒古城の歴史」クイズ大会とMenkoiガールズパフォーマンス
優勝者には、オーランドさんグッズをプレゼント



藤棚呈茶会 (邑楽町茶華道会)

お茶やお菓子を提供(1人400円)
※お菓子が無くなり次第終了(先着300人)。

■ 箏演奏
10:00~12:00
みやび会によるお箏の演奏

■ 和太鼓演奏
12:00~13:00
邑楽太鼓盛和会による和太鼓演奏



会場内行事一覧



■ 御城印・御朱印・お守り販売
当日限定で会場内(浮島弁財天)で販売
御城印はイベント記念版も登場

■ 弁財天大祭
弁財天御神体の拝観など

■ 武将兜・甲冑着付け体験
子ども向けの甲冑着付け体験。オーランドさんオリジナル武将兜をかぶって戦国武将と記念撮影！

■ おうらてくてくアプリ案内
当日限定ウォーキングコースを達成すると100ptゲット！
10:00~18:00

■ 町公式LINE案内ブース
おともだち登録済み画面を表示で、初配布
オーランドさんトレーディングカードをゲット！
※数に限りがあります。



■ 飲食販売ブース
邑楽町商工会青年部による飲食販売と子ども向け模擬店
焼きそば、唐揚げ、ベビーカステラなど

■ ORLC子ども向けイベント
邑楽町レクリエーション・リーダーズクラブと一緒にレクで遊ぼう
ふわふわオーランドさんもやってくるよ！



■ スタンプラリー
イベント会場と町内のスポットを
巡って景品を手に入れよう！



◀景品のオーランドさんハンド
タオルやシール、キーホルダー
新オーランドさんグッズも登場

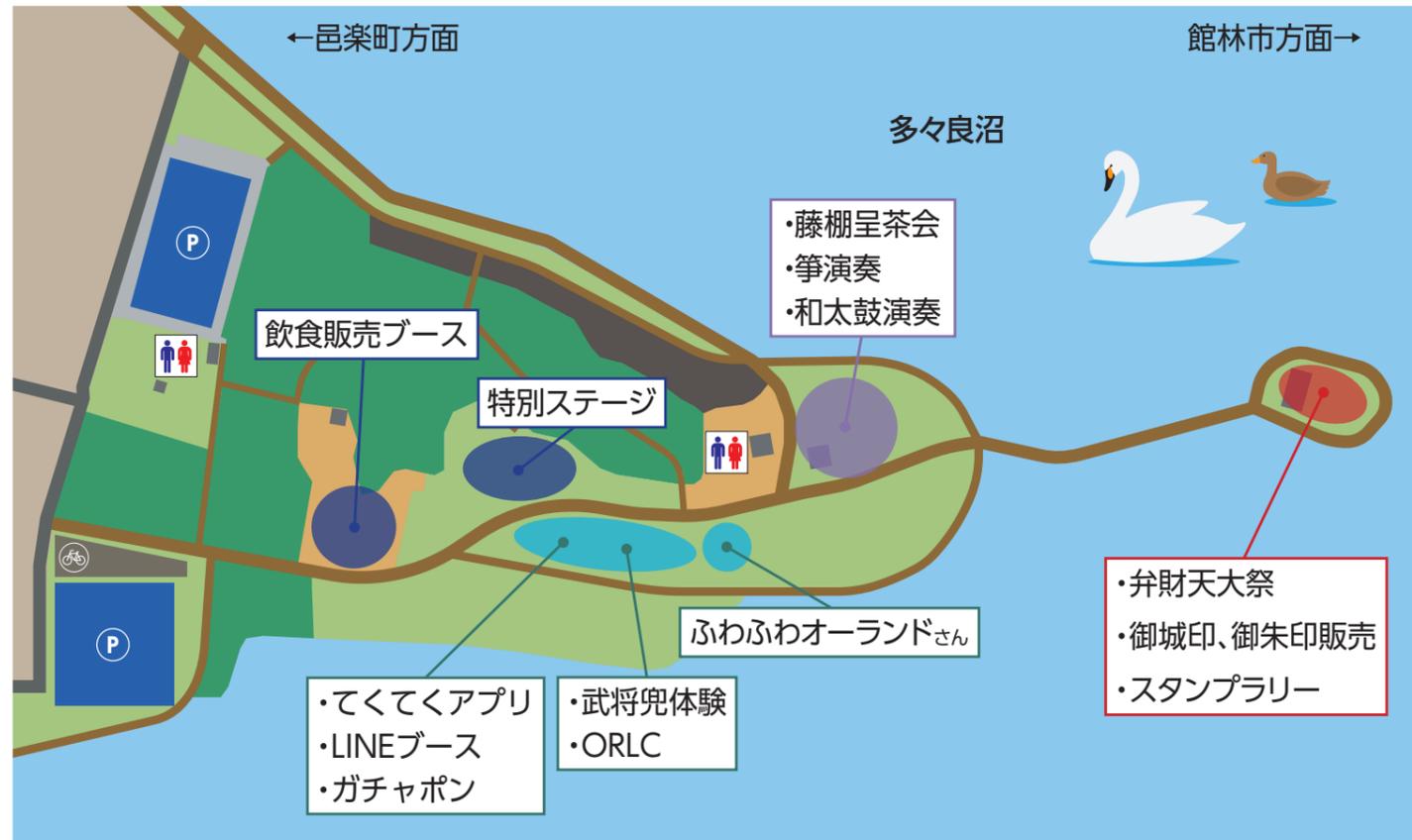
■ ガチャポン抽選会
コープぐんまによる生協人気の商品やノベルティグッズが
もらえるガチャポン抽選会

主催 鶺鴒古城まつり実行委員会

鶺鴒新田自治会、恩林寺、邑楽町茶華道会、邑楽太鼓盛和会、ORLC、
群馬甲冑会、邑楽町商工会青年部、邑楽町、邑楽町教育委員会 (順不同)



イベントホームページ



鶯古城とは

邑楽町大字鶯新田字古城にある、中世の城跡で町指定史跡です。城跡西南端に当たる入り口の道路付近から、半島部を横断するように北に向かって直線にのびる、高さ3メートル、長さ250メートルほどの土塁と、その西側に沿って空堀が現存しています。

築城から廃城まで

鎌倉幕府第十四代執権北条高時が滅ばされたとき、その弟の僧慧性・荒間朝春らは共に逃げてきて、多々良沼に突出した「荒間崎」と呼ばれた半島部に築城。その後、応永年間(1394~1428)には多々良四郎忠致の居城になり、さらに戦国時代を迎えると、館林城主の重臣で下野国小曾根郷八形(足利市高松町)城主小曾根政義は小田原北条氏の来攻に備え、兼帯で当城を守備しました。しかし、天正十八年(1590)、豊臣秀吉の小田原攻めの際、館林落城に伴い廃城となり、鶯古城二百五十余年の歴史を閉じました。今はわずかに残る塁濠と、先端浮島に安置してある南北朝期と推定される宝篋印塔(供養塔などの石造物)の一部が、辺りの風景とともに往時の繁栄を物語っています。

鶯古城で刀剣が作られていた

現在の多々良沼公園内にあった「鶯古城」内の通称「天狗屋敷」で作られていたとされます。多々良沼では、これまで金糞と呼ばれる鉄滓(製鉄の不純物やかす)やたたら製鉄の炉壁が確認されています。今のところ、刀が作られた時期よりも古い奈良・平安時代の製鉄であることが分かっています。多々良沼周辺は、砂鉄や木炭などの原材料が付近から採取可能であるので古代に製鉄が行われていたと考えられます。このことから、江戸時代に玉鋼の製鉄が行われたかも知れません。

徳川幕府公認刀工

鶯古城で鍛刀を行った康継は初代の次男であり、二代目の弟の康意です。その初代は関ヶ原の合戦後、徳川家康の次男である結城秀康のお抱え刀工となった人物です。その後、大御所家康にも認められ、徳川幕府の御用鍛冶にもなり、「康」の一字と「葵紋」を刀の中心(刀身の持ち手部分)に切ることを許され、続く二代目康継も二代目将軍秀忠から重用されていました。また、鍛刀を行った刀には中心に「南蛮鉄を以て」とも刻まれています。これは扱いが難しい材料をあえて使用したことを表しており、自らの技術力を誇示するために代々添銘に用いたようです。この輸入鉄は、インドで製造されたもののようですが、不純物として特にリンの含有量が多く、高温で溶解処理されているため作刀時の鍛錬でも除去できないことから、輸入鉄のみを用いた刀では極寒の中では折れる恐れがあり、玉鋼の一部混ぜ合わせて鍛刀を行ったようです。

いつから鶯古城で刀を打っていたのか

「康意康継」がこの地を訪れたであろう時代は、館林藩の藩主が後の五代将軍となる綱吉のころと推測され、邑楽町内で代々続く旧家には、「上州鶯古城打康継」の脇差(1尺=30cm以上2尺=60cm未満)が受け継がれており、時の城代(城主の留守中に代わって城を管理する者)を務めた金田氏伝来であるとの言い伝えからも、鍛刀年代が裏付けられています。なお、この旧家に伝わる脇差は来歴が明らかでないため、刀剣としては唯一町の重要文化財に指定されています。他にも「上州鶯古城打康継」の刀剣はこれまで打刀(2尺=約60cm以上)が三振、脇指が一振確認されています。

刀剣特別展示「上州鶯古城打康継展」

4月26日~5月11日 午前9時~午後6時

※4月28日、30日、5月5日は休館日

場所 邑楽町立図書館